

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入（マーク）すること。

法 規 12問 30分

法 規

〔1〕 固定局の免許状に記載される事項に該当しないものは、次のうちのどれか。

1. 免許人の氏名又は名称及び住所
2. 無線局の目的
3. 空中線の型式及び構成
4. 通信の相手方及び通信事項

〔2〕 次の記述は、「無線従事者」の定義である。電波法の規定に照らし ☐ 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線従事者」とは、☐ であって、総務大臣の免許を受けたものをいう。

1. 無線設備の操作又はその監督を行う者
2. 無線局に配置された者
3. 無線局を管理する者
4. 無線局を運用する者

〔3〕 無線局の免許人が電波法若しくは電波法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したときに電波法の規定により総務大臣が行うことがある処分はどれか。次のうちから選べ。

1. 期間を定めた空中線電力の制限
2. 期間を定めた電波の型式の制限
3. 再免許の拒否
4. 期間を定めた通信の相手方又は通信事項の制限

〔4〕 総務大臣から臨時に電波の発射の停止の命令を受けた無線局が、その発射する電波の質を総務省令に適合するように措置したときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

1. その旨を総務大臣に届け出て、電波の発射を開始する。
2. 直ちにその電波を発射する。
3. その旨を総務大臣に申し出る。
4. 他の無線局の通信に混信を与えないことを確かめた後、電波を発射する。

〔5〕 固定局の免許状は、掲示を困難とする場合を除き、どの箇所に掲げておかなければならないか。次のうちから選べ。

1. 無線局のある事務所の見やすい箇所
2. 主たる送信装置のある場所の見やすい箇所
3. 受信装置のある場所の見やすい箇所
4. 通信室内の見やすい箇所

〔6〕 次の記述は、業務書類の備付けに関する記述である。電波法の規定に照らし、☐ 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線局には、正確な時計及び ☐、無線業務日誌その他総務省令で定める書類を備え付けておかなければならない。」

1. 無線局事項書
2. 免許人の氏名又は名称を証する書類
3. 免許証
4. 無線検査簿

国内電信級陸上特殊無線技士試験問題

法 規

〔7〕 無線局が、自局に対する呼出しであることが確実にない呼出しを受信したときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

1. その呼出しが反復され、他のいずれの無線局も応答しないときは直ちに応答する。
2. その呼出しが反復され、かつ、自局に対する呼出しであることが確実に判明するまで応答しない。
3. その呼出しが数回反復されるまで応答しない。
4. 直ちに応答し、自局に対する呼出しであることを確かめる。

〔8〕 無線電信通信において、通報を確実に受信したときに送信することになっている略符号はどれか。次のうちから選べ。

1. ラタ
2. TU
3. VA
4. R

〔9〕 無線電信通信において、呼出しに使用した電波と同一の電波により通報を送信する場合、順次送信する事項のうち省略することができるのはどれか。次のうちから選べ。

- | | |
|-----------------|----|
| 1. 相手局の呼出符号 | 1回 |
| 2. (1) 相手局の呼出符号 | 1回 |
| (2) DE | 1回 |
| 3. (1) DE | 1回 |
| (2) 自局の呼出符号 | 1回 |
| 4. (1) 相手局の呼出符号 | 1回 |
| (2) DE | 1回 |
| (3) 自局の呼出符号 | 1回 |

〔10〕 一般通信方法における無線通信の原則として無線局運用規則に定める事項に該当しないものはどれか。次のうちから選べ。

1. 無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、直ちに訂正しなければならない。
2. 必要のない無線通信は、これを行ってはならない。
3. 無線通信は、迅速に行うものとし、できる限り短時間に終わるようにしなければならない。
4. 無線通信に使用する用語は、できる限り簡潔でなければならない。

〔11〕 無線局において、「OSO」を前置した呼出しを受信した場合は、応答する場合を除き、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

1. 混信を与えるおそれのある電波の発射を停止して傍受する。
2. 直ちに付近の無線局に通報する。
3. 直ちに非常災害対策本部に通知する。
4. すべての電波の発射を停止する。

〔12〕 無線局は、自局の呼出しが他の既に行われている通信に混信を与える旨の通知を受けたときは、どうしなければならないか。次のうちから選べ。

1. 空中線電力をなるべく小さくして注意しながら呼出しを行う。
2. 中止の要請があるまで呼出しを反復する。
3. 直ちにその呼出しを中止する。
4. 混信の度合いが強いつきに限り、直ちにその呼出しを中止する。